

県士会 ニュース

No.
199
[2019.10]

Kanagawa Association of Occupational Therapists — KAOT —

Contents

TOPIC

- 2 OT コネクトミーティングを開催いたします！
- 2 神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会
- 1 巻頭言
- 3 県学会開催報告
- 3 公益法人格取得への道
～一般社団法人と公益社団法人の違いと
これからの作業療法～
- 4 連載コラム ちょっと一杯どうですか？
- 4 理事会議事録
- 6 各部からの報告
- 8 研修会案内
- 8 作品大募集
- 8 事務局からのお願い
- 8 編集後記

巻頭言

作業療法士だからこそ、地域・社会貢献を！

エリア化推進委員会
遊びリパーク リノア
大郷 和成



「私たち作業療法士は、社会に対してどのような貢献ができるのだろうか。」

作業療法士になって14年目。ここ数年はそんなことばかり考えています。

そもそも、作業療法士はどのような強みを持っているのでしょうか。そのような事を考えているとき、一冊の本がヒントをくれました。エリザベス・タウンゼント氏の著書「続・作業療法の視点」です。この中でタウンゼント氏は、作業療法士には10の強みがあると述べています。それは「適応、代弁、コーチ、協働、相談、調整、デザイン・実行、教育、結び付け、特殊化」といった強みです。作業療法士はクライアントがより良い人生を送るための多くの強みを持っており、その強みこそ地域・社会に活かしていけるのだろうかと感じました。

では、そのような強みをどのように活かしていけば良いのでしょうか。

学校では教えてもらえませんでしたし、病院でも教えてもらえませんでした。近くにモデルケースもありませんでした。「それなら海外だ！」と考えると、内閣府の青年国際交流事業に応募したのが今から6年前。

「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」という事業で、運よく日本代表としてニュージーランドへ派遣されることになりました。このプログラムは、高齢者関連、障害者関連、青少年関連分野の社会活動に携わる日本青年を各国に10日間派遣し、各分野の社会活動で中心的担い手となる人材を育成するのが目的です。ニュージーランドでは、社会モデルに基づいた当事者中心のあり方に触れ、そこで活躍する作業療法士と交流することができました。ニュージーランドでは作業療法士の多くが地域で活動し、当事者たちからはなくてはならない存在として認識されていました。このような活動の裏には、普段から作業療法士

が地域・社会貢献活動を実施していることが大きく影響していました。

ニュージーランドと日本では社会システムが大きく異なります。しかし、作業療法士の可能性を感じた私は、「作業療法士として持っている知識・スキルや経験を活かした社会貢献活動をしたい！」という気持ちが強くなり、病院に勤務しながら色んな活動を展開していきました。神奈川県の認知症モデル事業や川崎市の寺子屋事業など、今まで関りが少なかった分野で作業療法士を活かした活動が経験できたことは作業療法士としての自信にもつながりました。この経験は当時の病院での仕事にも役立ち、今の活動でも大いに役立っています。

皆さんは、「作業療法士よ、地域に飛び出そう！」といっても、そう簡単にはいかないと思われるでしょう。私を含め、多くの作業療法士が病院や施設で勤務しているという現状もあります。しかし、病院や施設も地域の一つであることに変わりはありません。地域包括ケアシステムの中でも、地域を支える重要な役割を期待されています。だからこそ、もっともっと地域との関わりを増やしていく必要があると思います。「所属している組織や業務の範囲で難しい」といった声も耳にします。難しいと嘆いているだけでなく、その難しさを打破できる作業療法士会を創っていきたい。私が理事になったのはそのためです。

「早く行きたければ一人で進め、遠くまで行きたければ皆で進め」というアフリカのことわざがあります。私は皆さんと進んでいきたいと強く願っています。もっともっと皆さんと顔を合わせて話し合いたい。エリア化推進委員会の理事となった今年度は、皆さんと語り合える場、皆さん同士が繋がる場を創っていきます。ともに笑顔と幸せが溢れる地域を目指しましょう！

エリア通信

OTコネクトミーティングを開催いたします！

エリア化推進委員会 大郷 和成

県士会ニュースでも度々ご報告していたエリア化構想。県士会として、「各会員が地域で作業療法を実践していく際にどのようなお手伝いができるだろうか？」と検討を繰り返した結果、「ネットワークの構築」というキーワードとなり、エリア化推進委員会が新設されました。

現在の医療制度は急性期～回復期～維持期と分業を体制の一つとしています。また医療や障害福祉の制度改革などにより、働く領域も多様化しております。地域包括ケアシステムの実現に向け、ひいてはこれからの地域共生社会を支えていくには、作業療法士としての経験年数や分野を超えて、地域単位の会員同志がつながることが必ず必要になります。

2019年度の当委員会における事業では【顔が見えるナナメの関係づくり】をテーマに、「OTコネクトミーティング」と表して会員の皆さまが繋がり合える場を設

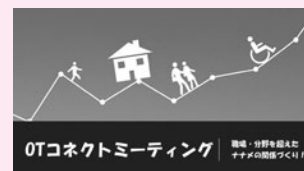
けることにいたしました！飲み物やお菓子を食べながら、ざっくばらんに語り合える場です。ラフな格好で、ラフな気持ちでお越しください。

＜開催概要＞

期間：2019年11月～
2020年1月

時間：19：30～
21：00（予定）

場所：県内8か所
人数：各会場40名程度



詳細は9月下旬頃よりHPにて告知致します。皆さまのご参加お待ちしております！

神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会

地域リハ三団体協議会 遠藤 陵晃

神奈川県訪問リハビリテーション実務者研修会 2019

令和1年7月6日、7日の二日間、神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会主催の神奈川県訪問リハビリテーション実務者研修会 2019 が横浜リハビリテーション専門学校で開催されました。

訪問リハビリテーション実務者研修会は訪問リハビリテーションサービスの質向上を目的に全国47都道府県で毎年行われている研修会になります。神奈川県ではこれまでに『排泄』や『呼吸』、『地域資源』など在宅医療・介護に関連する生活行為に焦点をあてて行われており、今年は『睡眠』に関しての基礎知識や睡眠障害の種類と治療アプローチ、生活環境の工夫について学べる研修が実施されました。参加者は作業療法士6名、理学療法士23名、言語聴覚士3名の合計32名と例年から比べると少ないのが残念ではありましたが、医師や薬剤師による講義、関連業者による体験型のワークショップというプログラムによって参加者からの満足度はとても高い研修会となりました。

1日目のプログラムは、神奈川県薬剤師会理事久保田 充明氏による不眠症などの睡眠障害に対する服薬支援についてのご講義や北里大学精神保健学教授田ヶ谷浩邦氏となごや耳鼻咽喉科医師名古屋孝夫氏による睡眠に関する基本的知識や睡眠時呼吸障害についてのご講義をいただき、臨床現場と照らし合わせながら理解を深めることができました。

2日目に関しては、睡眠に関連する医療機器や福祉用具業者による体験型のワークショップが開かれました。

パラマウントベッド株式会社からは安眠に向けたベッド環境の工夫や最新のベッド・マットレス製品の紹介、日本コンチネンス協会からは夜間排尿に対するケアの工夫、株式会社フィリップス・ジャパンからはCPAP療法（経鼻的持続陽圧呼吸療法）の装置を実際に使用させていただきました。

人の生活の三分之一を占める活動が『睡眠』になります。それもあって睡眠をいかに良質なものとするか、そして本人主体のものとするかがQOLに大きく影響するものと再認識することができ、在宅だけでなく医療機関や施設での生活においても考えなければならない視点を学ぶ研修会となりました。

第4回神奈川県訪問リハビリテーション学術集会開催

神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会では毎年訪問リハビリテーション学術集会を開催しています。今年度は『ACP（アドバンス・ケア・プランニング）』に焦点をあてて企画されており、2020年1月18日（土）横浜市の関内新井ホールで開催予定となっております。訪問リハに従事している方やこれから従事する予定のある方はもちろんのこと、興味のある方なら誰でも参加できます。超高齢社会に生きる私たちも専門職としてや地域住民としての立場で地域の課題に『自分事』として目を向けていきましょう。

学術集会ホームページ

<https://kana-houmon-reha-gakai.jimdo.com/>

県学会開催報告

第17回神奈川県作業療法学会 学会長 野々垣 睦美

2019年7月21日、ホテルメルパルク横浜にて第17回神奈川県作業療法学会を開催し、400名を超える方に参加していただきました。ご来場いただいたみなさま、学会は楽しんでいただけたでしょうか？

今回のテーマは「新たな作業療法時代へ ～Change & Challenge～」とし、これまでの学会運営や企画を大幅に変更しました。そのひとつは、当日の会場運営に携わるスタッフを公募制にしたことです。「学会に参加するから、少しなら手伝えるかも」という方に集まっていたいただきました。初めての試みであり、準備が後手後手になってしまいましたが、たくさんの会員の協力を得られたことを嬉しく思いました。神奈川県作業療法士会は2,000名を超える大所帯。より多くの方々が県士会を身近に感じ、活動に関わっていただけるようにするためにはどうすればよいのか…理事会でも検討していますが、今回の学会でみなさまにお手伝いいただいたことが、今後の活動に広がっていくと確信しています。

また、当日ご参加いただいた方は、会場内でかわいらしい子どもたちの姿を見かけたと思います。今回の学会でどうしても実現しなかったこと。それは「子どもを連れて学会に行こう！」という流れを作り出したかったの

です。県士会会員の7割が女性であり、多くの子育て世代を含んでいます。育児は女性だけの役割ではないのですが、実際に子どもを連れて学術研鑽の場には行きにくい、という風潮があるように感じます。勉強したいけど子どもがいるからなあ、と悩んでいる人にも参加してもらえる学会にしたい、と考えた企画です。これも初めての試みで配慮に欠けていた部分もあると思いますが、Change & Challengeの一環として、お目こぼしいただければ幸いです。

学会の企画は盛りだくさんで昼休憩の時間が設定できなかったり、会場が手狭で立ち見が出るなど参加者のみなさまにはご負担をおかけした部分もありましたが、最旬な情報に触れていただけたのではないかと思います。また、演題発表の形式を2パターンにしたことや演題表彰を取り入れるなど、たくさんの挑戦をした学会となりました。

さまざまな課題を抱えている学会運営についてはマニュアル化を進め、今後の実行委員への負担を減らせるよう、まとめの作業に入っています。もう少し仕事が続きます…。最後になりますが、今回の学会に携わっていただいたすべての方に深く感謝いたします。

公益法人格取得への道

～一般社団法人と公益社団法人の違いとこれからの作業療法～

公益法人化対策委員会 澤口 勇

日々の現場で患者と会い、作業療法を実践しておりますと「作業療法士としての集まり・団体としての存在意義」を間近に感じることは案外少ないかもしれません。それだけ皆さんも日々患者さんのために熱心に取り組まれていることと思います。しかしここ数年、来院される方々のケアだけが主流だった医療（作業療法）の時代は「地域包括ケアシステムの構築」「地域医療構想」「在宅医療・介護連携推進」など、2025年の医療・福祉の在り方を示すビジョンが次々と打ち出される中で変化しつつあります。

こうした時流の変化に対応し、我々のもつ作業療法サービスの提供範囲について我々は再検討しなくてはならない時期にきたと私は感じております。具体的には「地域住民に対し作業療法の視点から『予防』や『共生社会』の考え方にどのようにサービスを提案していくか」「施設などに通所されていない方のケアをどう作業療法として担保するのか」「長いライフステージの中で、切れ目のない作業療法サービスの提供を保持していくにはどのような体制を作ればいいのか」などです。

さて、現状の「一般社団法人」とこれから当会が目指す「公益社団法人」は共に「公に認められた団体」に違いありませんが、「一般社団法人」は「会員による会員のための団体・・会員の益が主体（例：会員の自己研鑽が主な事業）」と捉えることができます。現状、神奈川県作業療法士会が行う事業の大半は会員向けの研修会が主体です。確かに会員からのニーズもありますので、今後も取り組まれると思います。しかし「公益社団法人」では、主目的がそういった会員による自己研鑽から「公の益」となります。つまり、病院や通所・訪問リハなど、現状の医療サービスを利用している方以外の全市民も対象に作業療法サービスを届けてゆくこととなります。先の通り行政からも「予防」や「共生社会」への取り組みに参画していくことが期待されていると考えられる中、公益社団法人化によりこれに答えられる作業療法が提供できるようになるでしょう。

将来、各会員が当公益社団法人を通して、地域に貢献されるようになることを切に望んでいます。

連載
RENSAI
COLUMN
コラム

ちよっと一杯 どうですか？



No. 12

「遠まわりの近道」

『おじちゃん』って近所の子供たちに呼ばれている私も、自宅近くの病院に勤務する作業療法士。病院では、誰からも『〇〇先生』と呼ばれている。

同じテーブルに年齢層の異なる患者さんが同じ時刻になってやって来た。リハビリの時間だ。「はい皆さんグッドモーニング」。皆つられて“グッドモーニング”と言って笑っている。“今日も痛くされるんだ。絶対そうだよ。嫌だなあ”と満更嫌でもなさそうに40代の男性が言う。それを聞く他の2人の70代のおばちゃんたちは、“痛くなきゃね、治らないよ!!”と彼に同調しつつ慰めていると、もう一人のおばちゃんも“ここに来たときは良く動くんだよね…頑張らないとダメよ”と痛みに弱い男性患者をあつという間にリハの世界に引きずり出す。リハ室とは未恐ろしい場所だ。そんな中、新米OTが手伝いに来てくれた。一通り説明すると、見よう見真似でその男性の訓練に入るが、当然上手いかない。この時の指導者は患者だ。“もう少しこうやって力を入れないと先生みたいににならないよ。そう、こうやって、そう、そう、イテテ…痛てえよ。そんな感じだよ！痛てえんだよねこれ…イテテ…!! 先生、やばいよ。この新人さんもセンス良いかもよ。ちよっと教えると直ぐ上手くなっちゃうんだよね。まったく!! イテテテ…痛てえよ!!”この間、私は何の指導もしていない。OJT (On the Job Training) って、患者から学ぶもの。指導者からのウンチクは後回しでも良い。兎に角、現場で学び現場を楽しむ。そのときの手に伝わる感覚や、患者の表情などもよく観察する。それが勉強だ。現場で流す汗には素晴らしい価値があると思う。“卒後教育で、先生はどのような方法で何を教えましたか？”と問われても、具体的な回答はできないかなあ。臨床という学ぶ環境があれば、それを提供(提示)して、あとは患者さんに評価して頂く。それが一番客観的でストレートな評価法であるから、

患者主導臨床指導方法論とでも言うのかな。時として、教育指導には煩雑な側面もある。例えば、大きい組織に属していると、指導者側の指導基準ルールや卒後の教育到達度などの設定や様々な基準があつたりするでしょうから、何かと大変でしょう。次から次へと新たなルールが出てきて覚えるのも一苦勞なんてことは無いとは思うけど、要は『感じるかどうか』なのだ。感じない者は、時間をかけて感じられれば良い。感じる者は、もっとコアに突き進む努力をすれば良い。卒後の教育は『感じる』がKey-Word だと思う。

私も今までに沢山の患者さんと向き合ってきた。今でもよく覚えている。担当患者を初めて受け持ったとき、担当患者が初めて亡くなってしまったとき、担当患者が初めて“ありがとう”って言ってくれたとき、担当患者が初めて“先生は違う”と反論をしてきたとき、担当患者が初めて“先生だけには本当のことを話したい”と言ってきたとき、担当患者が初めて転院して行ったとき、担当患者が初めて手紙をくれたとき…などなど、その時々があつたから今があるんだと思う。患者さんたちから受ける言葉の一つ一つが我々の成長を支えて下さっていることを改めて感じる。そう、いつでも、感情が素直に行き交う治療空間を演出する中に成長するツールが転がっている。なかなか遠いように感じるけど、意外に近道なのかもしれませんね。卒後何年経っても成長は出来ます。皆ももっともっと自分の成長を楽しんでみませんか。『もっと“感じる”教育』で。

今回も登場した“おじちゃん”。OTを一生涯の仕事と決意し、長いOTの歴史と共に奮闘している“おじちゃん”です。あくまでもおじちゃん視点での作業療法学を織り交ぜた連載コラムです。面白エピソード満載です。次回もお楽しみに。

(文責：ペンネーム おじちゃん)

理事会議事録

★ 2019年度6月20日 理事会議事録

1. 日時：2019年6月20日(木) 19:05～21:10
2. 場所：神奈川県作業療法士会事務局
3. 理事定数
参加理事：錠内・野々垣・木村・金山・吉本・佐々木・奥原・玖島・野本・遠藤・神田・佐藤範・戸塚・澤口・佐藤・西川・大郷(17名)
欠席理事：神保(1名)
参加監事：田中・鶴見(2名)
広報部ニュース班班長：出口
4. 審議事項
 - (1) 事務局
 - 1) 神奈川県福祉子どもみらい局福祉部「介護従事者の確保に関する事業」「医療関係事業」の意見募集について 県士会として意見を取りまとめる。
 - 2) 神奈川県精神障害者スポーツ大会実行委員について 古賀誠氏(昭和大学保健医療大学作業療法学科)⇒承認。
 - 3) 第18回ヨコハマ・ヒューマンライフ&テクノランドに対する後援 ⇒今年度も後援。
 - 4) 部員の承認

- 福留大輔氏(イムス横浜狩場脳神経外科病院)／山口悠里氏(金沢病院)／横山早紀氏(イムス横浜狩場脳神経外科病院)／池田公平氏(神奈川県立保健福祉大学)／宮沢優氏(イムス横浜狩場脳神経外科病院)／岩切七彦氏(新戸塚病院)／明立早香氏(自宅)／森田満恵氏(横浜市立みなと赤十字病院)／榎本光彦氏(新戸塚病院)／鎌田快予氏(専従)／松村啓子氏(専従)／武内千秋氏(専従)
- (2) 財務部
 - 1) 部員の承認
黒木裕介氏(葉山ハートセンター)／鈴木啓太氏(介護老人保健施設かまくら)／斉田浩彰氏(湘南鎌倉総合病院)
- (3) 学術部
 - 1) 2018年度神奈川県作業療法研究の発送に関して 3月の理事会で学術誌が遅れており、4月上旬に発送予定と報告したが、郵送代の捻出先について不明確なまま発送されてしまった。補正予算を組み対応する。
 - 2) 部員の承認
林慎也氏(えびな脳神経外科)／川端遼磨氏(イムス横浜狩場脳神経外科病院)／田中秀和氏(自宅)／井上那楽氏(済生会東神奈川リハビリテーション病院)／佐藤慶一氏(横須賀市立うわまち病院)／鈴木恵利香氏(北里大学東病院)／梶原真樹氏(新横浜リハビリテーション病院)／川口敬之氏(北里大学医療衛生学部)／江川純香氏(国府津病院)／齋藤梢氏(指定

- 訪問看護アットリハ新城) / 石川哲也氏 (済生会神奈川病院) / 佐々木洋子氏 (聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院) / 宮崎道輝氏 (北里大学病院) / 幅田智也氏 (北里大学医療衛生学部) / 渡部喬之氏 (昭和大学藤が丘リハビリテーション病院) / 迫田裕司氏 (田名老人保健施設光生) / 嘉部匡朗氏 (昭和大学横浜市北部病院) / 青木啓一郎氏 (昭和大学保健医療学部作業療法学科) / 内堀謙吾氏 (昭和大学藤が丘リハビリテーション病院)
- 3) 急性期、回復期、生活期における活動・参加に焦点を当てた作業療法士の視点
講師：石川哲也氏 (作業療法士・済生会神奈川病院)
開催日：2019年6月16日(日) 10:00～12:00
参加数：77名(終了)(新会員入会41名)
- (4) 教育部
- 1) 生涯教育制度ポイントシールの配布について 従来通り、当日配布とする。
- 2) 研修会のバーコード受付について 研修会当日の受付時、バーコード受付の試行のため今後の研修会広報時に研修受講カードの持参を記載する。
- 3) 部員の承認
本藤広美氏 (湘南慶育訪問看護ステーション) / 福田舞氏 (藤沢病院) / 大場文氏 (介護老人保健施設アゼリア) / 石井有希氏 (横浜リハビリテーション専門学校) / 金子康氏 (介護老人保健施設湘南わかば苑) / 藤原康子氏 (県央地域就労援助センター) / 木村亮太氏 (磯子中央病院) / 荒井裕大氏 (介護老人保健施設希望の森) / 関口直也氏 (けいゆう病院) / 高林剛氏 (仁和会総合病院) / 金木貴芳氏 (自宅) / 磯貝優花氏 (国府津病院) / 川本ひかり氏 (日向台病院) / 山本真理子氏 (横浜市立脳卒中・神経脊椎センター介護老人保健施設コスモス) / 鈴木香苗氏 (関東病院) / 杉村直哉氏 (神奈川県立保健福祉大学) / 平本悠佑氏 (横浜舞岡病院) / 湯浅信孝氏 (国立病院機構神奈川病院)
- (5) 広報部
- 1) 部員の承認
出口弦舞氏 (国際医療福祉大学小田原保健医療学部作業療法学科) / 丸岡ひろ氏 (済生会横浜市東部病院) / 山岡光氏 (湘南慶育病院) / 松井洋麿氏 (淵野辺総合病院) / 佐藤愛氏 (新戸塚病院) / 安田優子氏 (横浜旭中央総合病院) / 清野由香里氏 (えびな脳神経外科) / 佐藤隼氏 (さがみりハビリテーション病院) / 水野友和氏 (江田記念病院) / 久保田友佳氏 (横浜新都市脳神経外科病院) / 有田健吾氏 (横浜新都市脳神経外科病院) / 原萌夏氏 (横浜新都市脳神経外科病院) / 松本佳代子氏 (さがみりハビリテーション病院) / 額谷文太氏 (さがみりハビリテーション病院) / 天野沙織氏 (さがみりハビリテーション病院) / 花形真氏 (介護老人保健施設相模原ロイヤルケアセンター) / 矢野智恵美氏 (えびな脳神経外科) / 福島ひとみ氏 (株式会社スタートライン) / 丸井智子氏 (佐藤病院)
- 2) ニュースの発行について 今年度も年6回発行を実施。会員増加で予算が不足気味。カラーを取りやめ低予算化する号も必要。
- 3) 相模原地区 市民祭(わかばまつり)でのブース出展 5月11日12日 内容：自動具作成体験(ボタンエイド)・自動具展示・パンフレット配布
- (6) 福利部
- 1) 部員の承認
畠中佳代子氏 (藤沢市民病院) / 田中達也氏 (横浜なみきりハビリテーション病院) / 荻野祥代氏 (横浜市立脳卒中・神経脊椎センター) / 須崎可奈子氏 (横浜旭中央総合病院)
- 2) 新入会員オリエンテーションについて 6月16日(日) IMS横浜国際看護専門学校で新入会員オリエンテーションを開催。参加者56名(理事・部員含めて72名)。17名当日入会あり。
- (7) 地域リハビリテーション部
- 1) 部員の承認
渋谷拓郎氏 (えびな脳神経外科) / 早川大貴氏 (ふれあい鶴見ホスピタル) / 山崎純一氏 (リーフスタイル) / 宍戸真帆氏 (なのはな訪問看護リハビリステーション) / 重森七美氏 (介護老人保健施設 ハートケア湘南・声名) / 森木勇一郎氏 (介護老人保健施設 都筑シニアセンター) / 佐藤夢莉耶氏 (茅ヶ崎新北陵病院) / 小椋瑛里氏 (桜ヶ丘中央病院) / 札幌優氏 (桜ヶ丘中央病院) / 足立恵美氏 (鶴巻温泉病院) / 及川明穂氏 (鶴巻温泉病院) / 佐藤麻裕子氏 (鎌倉リハビリテーション聖テレ
ジア病院) / 坂内大祐氏 (介護老人保健施設 和光の園) / 佐藤隼氏 (さがみりハビリテーション病院)
- (8) 制度対策部
- 1) 部員の承認
沼田一恵氏 (自宅会員) / 金原衣理子氏 (イムス横浜狩場脳神経外科病院) / 秋枝舞氏 (イムス横浜狩場脳神経外科病院) / 千葉利奈氏 (イムス横浜狩場脳神経外科病院) / 木村亮介氏 (リハリゾートわかたけ) / 神保匡良氏 (茅ヶ崎リハビリテーション専門学校) / 宮田和典氏 (横浜なみきりハビリテーション病院) / 加藤結花里氏 (介護老人保健施設リハセンターさわやか) / 鎌田博之氏 (横浜なみきりハビリテーション病院) / 高吉亮平氏 (東名厚木病院) / 井上里菜氏 (イムス横浜狩場脳神経外科病院) / 川辺均氏 (茅ヶ崎新北陵病院) / 田畑雄吉氏 (自宅) / 長井美奈子氏 (横浜市総合リハビリテーションセンター) / 山崎あゆみ氏 (株式会社モノウェルビーイング) / 西則彦氏 (横浜市リハビリテーションセンター) / 渡邊隼人氏 (さがみりハビリテーション病院) / 渡辺謙斗氏 (横浜なみきりハビリテーション病院) / 山根剛氏 (茅ヶ崎リハビリテーション専門学校) / 奥村容子氏 (国府津病院) / 前田智恵子氏 (神奈川県立相模原中央支援学校) / 岸貴雅氏 (藤沢病院)
- (9) 規約委員会
- 1) 部員の承認
生出太郎氏 (鶴巻温泉病院) / 名古屋和茂氏 (横浜YMCA学院専門学校)
- (10) ウェブサイト管理委員会
- 1) 部員の承認
作田浩行氏 (昭和大学保健医療学部作業療法学科) / 福嶋祐子氏 (汐田総合病院) / 甲本夏穂氏 (国際医療福祉大学小田原保健医療学部作業療法学科) / 浅井翔伍氏 (新戸塚病院) / 清水拓人氏 (鶴巻温泉病院) / 百瀬あずさ氏 (福井記念病院)
- 2) レンタルサーバーについて 当会にとってウェブサイトは重要な存在であるため見積もりが出次第、MLまたはウェブ会議で検討する。
- (11) 学会評議委員会
- 1) 部員の選出
内山博之氏 (横浜リハビリテーション専門学校) / 小林千裕氏 (介護老人福祉施設 千の風川崎) / 濱口陽介氏 (川崎市北部リハビリテーションセンター百合丘障害者センター在宅支援室) / 荻野祥代氏 (横浜市立脳卒中・神経脊椎センター) / 若切実帆子氏 (自宅) / 永易美香氏 (川崎市中央療育センター) / 加藤直樹氏 (横浜医療福祉センター港南) / 松井亜沙美氏 (北里大学病院) / 林慎也氏 (えびな脳神経外科) / 一木愛子氏 (神奈川県総合リハビリテーション事業団地域リハビリテーション支援センター) / 前場洋祐氏 (北里大学医療衛生学部)
- (12) 公益法人化対策委員会
- 1) 部員の承認
村越妙美氏 (介護老人保健施設樹の丘)
- (13) 生活行為向上マネジメント推進委員会
- 1) 部員の承認
渡邊隼人氏 (さがみりハビリテーション病院) / 村仲隼一郎氏 (茅ヶ崎リハビリテーション専門学校)
- (14) 認知症対策委員会
- 1) 部員の承認
杉本尚久氏 (前田整形外科・内科クリニック) / 新山祐貴氏 (小田原市立病院) / 片切深央氏 (介護老人保健施設大磯幸寿苑) / 椎野光優氏 (介護老人保健施設グレースヒル・湘南) / 小澤隆氏 (ケアーズ小田原堀之内訪問看護リハビリステーション) / 足立雄介氏 (間中病院) / 山口拓也氏 (鶴巻温泉病院) / 杉田謙太郎氏 (真鶴町国民健康保険診療所) / 弘中優子氏 (鶴巻温泉病院)
- (15) 地域包括ケアシステム推進委員会
- 1) 部員の承認
川上新氏 (済生会神奈川病院) / 木下剛氏 (湘南慶育病院) / 片岡直人氏 (湘南慶育病院) / 山岡光氏 (湘南慶育病院) / 池嶋孝二氏 (ほほえみ訪問看護リハビリステーション) / 中井琢哉氏 (北里大学東病院) / 吉田倫子氏 (国際親善総合病院)
- (16) エリア化推進委員会
- 1) 部員の承認
理事6名が昨年度より引き続き協力していく。
渡村卓也氏 (遊びりパークリノア) / 澤口勇理事 / 佐藤良枝理

事／神保武則理事／遠藤陵晃理事／吉本雅一理事／金山桂理事

5. 渉外報告

- (1) 神奈川県医療専門職連合会総会
錠内会長・木村副会長・佐々木理事・大郷理事・戸塚理事・金山理事・野本理事・神田理事・佐藤範理事が参加。
- (2) 神奈川県病院医療菅家団体連絡協議会 錠内会長参加
- (3) 介護予防のための地域ケア個別会議 吉本理事・黒木祐介氏参加
- (4) 振興財団訪問リハビリ振興財団第10回訪問リハ・地域リーダー

- 会議 遠藤理事・佐藤準氏参加
- (5) 医療専門職連合会定例理事会 錠内会長・金山理事参加
- (6) 第1回地域リハビリテーション体制検討プロジェクト(川崎市) 金山理事参加
- (7) 公益社団法人神奈川県病院協会第94回定期総会後懇親会 野々垣副会長参加
- (8) 第3回認知症フェスタ検討委員会 奥原理事参加

以上、文責(金山)

各部からの報告

地域リハビリテーション部

(文責：地域リハビリテーション部 遠藤 陵晃)

活動予定

2019年度地域リハビリテーション部は、地域包括ケアシステム・地域共生社会に参画へ出来るような作業療法士の人材育成を行っていききたいと思ひ研修会を実施して行きます。

作業療法士になって困っていることがあれば研修へ参加

研修会名	日程	会場
多職種精神保健福祉セミナー	9月28日 土曜日	ハーモニーとみおか
介護予防研修会(地域リハ人材研修会)	10月6日 日曜日	ウィリング横浜
地域ケア会議研修会(地域リハ人材研修会)	11月10日 日曜日予定	ウィリング横浜
地域事業研修会(地域リハ人材研修会)	1月以降予定	横浜 YMCA 学院専門学校
難病リハ講習会	2月2日 日曜日予定	横浜 YMCA 学院専門学校
特別支援教育研修会	1月以降予定	未定

し、質問やネットワークを作っていければと思います。経験値など関係なく、地域リハ部主催の研修会へ参加し各領域の方や経験ある方の話を聞いて自分のスキルとしてもらえればと考えます。

下記(予定)の日程で地域リハ部主催の研修会を実施します。

OT協会主催 2019年度地域ケア会議および介護予防・日常生活支援総合事業に関する人材育成研修会に参加して

8月3日・4日に東京で開催された作業療法士協会主催の「地域ケア会議および介護予防・日常生活支援総合事業に関する人材育成研修会」が開催されました。

本研修は地域ケア会議・総合事業に貢献できる作業療法士の人材を育成し、全国すべての市町村における地域ケア会議・総合事業に作業療法士が参画できることを目的としています。都道府県士会の代表者が参加するこの研修に神奈川県作業療法士会からも地域リハ部の二名で参加してきました。協会で作成された地域包括ケアシステム参画の手引きの活用方法、都道府県士会における事業計画作成演習、認知症支援や高齢者の自動車運転の最新情報の提供、地域ケア会議における助言演習など、非常に濃い内容のプログラムでした。特に印象深かった内容として、人身事故を引き起こした高齢者を分析したところ、それ以前にも複数回の事故を起こしている高齢者が多いこと、そして近い将来に認知症高齢者数は700万人を超えるそうですが、これは日本全国の小学生の人数を上回る人数とのことです。昨今高齢者が関わる不幸なニュースが多く聞かれますが、私たち作業療法士が果たさなければならぬ使命は、きっとこの現状をいい未来へと導くことなのだと思います。

平成29年度より全国の市町村で総合事業が動き出しています。一部の作業療法士の活躍が散見されるようになってきましたが、事業へ参画しているOTの知識・技量不足はまだまだ否めないとのことです。この課題を解決するために必要なこと、それは改めて作業療法士自身が専門性を自覚し、それを実践することに尽きると思ひます。地域

包括ケアシステムにおける作業療法士の役割や求められる専門性は、医学的知識をベースとしたADL・IADLに関連する生活行為のアセスメントと向上のための助言や指導です。

PT・OTの養成校が全国的に増えたことで、2030年を目途に療法士は飽和状態となってしまう可能性があるそうです。医療や介護の保険診療だけでは、職域の確保が難しくなってくる時代が近づいています。地域ケア会議・総合事業は保険診療ではない、私たちの新しい職域です。全国には地域ケア会議・総合事業で、すでに活躍している作業療法士の仲間たちがたくさんいます。もしあなたも興味を持たれたら、是非とも神奈川県作業療法士会地域リハビリテーション部主催の地域リハビリテーション人材育成研修会を受講されてください!!!

保険診療に引けを取らない、魅力ある臨床は地域にもあるのです! それこそが地域リハビリテーションの魅力だと、私は思ひます。

追記 作業療法士協会地域包括ケアシステム推進委員会より「地域包括ケアシステム参画の手引き ~作業療法士に求められる生活行為工場の視点を以て~」が、協会ホームページよりダウンロードできます! 協会のトップランナーの方々のご尽力された成果です。ぜひ皆様、熟読されてください!



広報部 広報部対外広報班活動報告

(文責：水野 友和)

活動日時：令和元年7月26日・27日
於：ヨコハマヒューマンテクノランド 2019
内 容：作業活動体験・相談ブース

夏の恒例行事となったヨコハマ・ヒューマン&テクノランド（通称ヨットテック）が、パシフィコ横浜にて今年も開催されました。ヨットテックは、横浜市リハビリテーション事業団が主催するリハビリテーション関連ブースや福祉機器等が集まる展示会です。開催18回目を迎える今回は2日間で15361人と前年を100名程超える来場者がありました。

今年も県士会のブース出展をいたしました。県士会ブースでは作業活動の体験として「しおり作り体験」を設け、活動を通して「作業療法」を知っていただく機会を作ったり、ブース来訪者から生活で困っていることの相談を受けるよう準備しました。今年は初日からブースを訪れる方が多く、作業療法を知っていただくきっかけとなった方々もいました。しかし今回は県士会スタッフの人数が若干足りなかった為、初日は作業療法を知っていただく時間や、相談の対応にあまり時間がさげませんでした。したがって2



日目は作業療法を知って頂き、現在困っている事の相談できるブースとして対応し、各種相談が寄せられました。県内外を問わず、作業療法士が必要な地域があることを今回のブース出展で気付かされました。今後は、各種イベントへのブース出展を増やして、県内での広報活動地域を広げられるよう努力していきたいと思っております。

教育部 連載「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」 県士会ウェブサイトから質問ができます！

(文責：教育部 奥原 孝幸 (神奈川県立保健福祉大学) 046-828-2738 (直)、kyoiku@kana-ot.jp)

「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」は、教育部関連の情報をお知らせしています。

今回は、お詫びとお知らせの号となります。前号のこのコーナーにて現職者共通研修の予定を同封するとご案内しましたが、同封ができませんでした。理由は臨床実習指導者講習会の企画調整が進んでいないことが理由です。大変申し訳ございませんでした。

次に、多くの方から臨床実習指導者講習会の開催予定をご確認いただいております。現在のところ今年度3回を予定していますが、運営費的に回数を減らさざるを得ない可能性があります。今後県士会ウェブサイトや本ニュース等

にてご案内をいたしますので、ご理解をお願い申し上げます。

その次に、教育部にて毎年開催しております現職者共通研修、現職者選択研修、事例報告登録制度研修会ですが、臨床実習指導者講習会の予定が決まらないため検討が進まない状況です。今後決まり次第ご案内申し上げます。

以上、事業が進んでおらず深くお詫び申し上げます。たいへん申し訳ございません。情報は本ニュース、県士会ウェブサイトにてお知らせ致しますが、何かございましたら上記にお問い合わせをお願い申し上げます。

地域包括ケアシステム推進委員会

(文責：地域包括ケアシステム推進委員会 遊びリパーク リノア 大郷 和成)



地域包括ケア特別セミナーの開催が決定！

昨年大好評であったシンポジウムを、今年度は特別セミナーとしてバージョンアップして開催いたします。今年度は作業療法士の地域参画をさらに推進していくためにスペシャルな講師を呼びました！

講師をしていただくのは、大阪で活躍する作業療法士の鎌田大啓さん（株式会社 TRAPE 代表取締役社長）です。鎌田さんは大阪府介護予防活動普及展開事業アドバイザーや老人保健健康増進等事業のワーキンググループ委員を務めるなど、「ひと」「環境」「活動」の要素を新たにつなぎ合

わせて本質的な価値を生み出す well-being デザイナーとして作業療法士の新たな価値を創っています。

今までにないざっくばらんで、アツくて、コアなセミナーになること間違いなし！会員のみなさま、まずは日程の確保をお願い致します。

<開催概要>

日時：2019年12月1日（日） 14:00～17:00（予定）
場所：横浜近郊
人数：50名程度

研修会案内

●脳卒中後の上肢運動機能回復 理論と実際 (C I療法を中心に)
 主催：コウセラ 日時：2019年10月20日
 場所：八洲学園大学 URL：https://kouteraken.jimdo.com/

●脊髄損傷のリハビリテーション講習会 基礎編
 主催：脊髄損傷の作業療法研究会
 日時：2019年10月26、27日
 場所：神奈川リハビリテーション病院 3F 研修室
 URL：https://sciot1994.wordpress.com

●生活期リハ施設 (通所リハ・老健・訪問リハ) が
 すべき運営管理とマーケティングセミナー (東京会場)
 主催：日本通所ケア研究会 日時：2019年11月9日
 場所：CIVI 研修センター秋葉原
 URL：https://www.tsuusho.com/revival_of_life/

●第54回三浦半島作業療法研究会
 主催：三浦半島作業療法研究会 日時：2019年11月15日
 場所：神奈川県立保健福祉大学
 URL：http://miuraot.kenkyuukai.jp/event/

作品大募集!

作業療法で作られた対象者様の作品を県士会ニュースに掲載しませんか?
 紙面を彩る素敵な作品を募集しております!

応募方法 ①お名前 (ふりがな) ②年齢 ③プロフィール ④作品タイトル ⑤作品について作者から一言
 ⑥担当 OT のお名前 ⑦担当 OT のご連絡先 (Email、電話番号など) ①~⑦を記載し、作品写真を添付して
 下記アドレスへメールしてください。

募集締め切り 随時募集しております。お問い合わせ Kouhou-sakuhin@kana-ot.jp (右のQRコードから読み込めます!)



事務局からの
お願い

●休会される方

来年度に休会予定の方は、前年の12月31日(末日消印有効)までに①『休会届』と②『証明書』を郵送でご提出願います。
 (FAX不可)。

●届出内容を変更される方

住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『変更届』を①郵送又は②FAXにてご提出願います。(随時受付)

届出書類は、神奈川県作業療法士会ホームページ公式ウェブサイトのINDEXより、ダウンロード可能です。なお期日までに提出
 いただけない場合は、次年度の会費が自動引落としとなり、返金を致しかねます。

編集後記

いよいよ2022年サッカーW杯(カタール)アジア予選が始まりますね!現在の日本代表の選出者の9割は海外組で構成されています。2002年の日韓W杯では中田・中村・小野・稲本・高原と数える程しかいませんでしたが、現在は何ページもスクロールする程の人数となり、逆にJリーグにも多くの外国人選手が来日しています。(主にヴィッセル)2016年のW杯では「ロストフの14秒」を経験し悔しい思いをしました。もうあんな思いはしたくない!頑張れ日本代表!「新しい景色を2022」⚽ (サッカー小僧)

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース
 〈199号〉2019年10月発行(年6回発行)

発行責任者 錠内 広之
 編集責任者 神保 武則
 編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科)
 山岡 光(湘南慶育病院) / 佐藤 愛(新戸塚病院) / 安田 優子(横浜旭中央総合病院)
 丸岡 ちひろ(済生会横浜市東部病院) / 松井 洋鷹(浏野辺総合病院)

印刷 発送 株式会社高陽印刷所

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301号
 TEL/FAX: 045-663-5997

月火水木金 10:00~15:00

メールアドレス: jim@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト

https://kana-ot.jp → 作業療法 神奈川 検索

Facebook https://www.facebook.com/kaotwebkan

Twitter https://twitter.com/kaotwebkan

